

Minami Kyushu University Junior college Syllabus

シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	研究科造園学専攻				
科目名称	東洋庭園学特論 I			授業形態	講義				
科目コード	642511	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	関西 剛康							ICT活 用	○
授業概要	<p>東アジアにおいてある意味、各時代と各地域、各利用者の理想郷を表現した庭園文化は、中国大陸で発展して朝鮮半島へと広がり、そして日本へと伝来した。そして、日本の歴史のなかでも発展を続けて現在に至っている。授業では、東アジア圏における日本の庭園文化を取り上げ、その歴史や変遷から、その成立背景となる思想文化や社会状況の理解を深め、高度な専門的知識の修得を図る。</p> <p>教員は、技術士（総合技術監理部門、建設部門〔都市及び地方計画〕）や登録ランドスケープアーキテクト（RLA）等の有資格者であり、実務として造園コンサルタントの設計事務所20年にわたって国内外の100件を超える都市公園や庭園プロジェクトに参画したキャリアを有する。また、教員は文化庁文化審議会専門委員、宮崎県美しい宮崎づくり推進有識者会議長、宮崎県景観まちづくりアドバイザー、宮崎市花のまちづくりコンクール審査委員長、宮崎グリーンインフラ研究会長などの職務経験も豊富である。授業では、実際に計画設計したランドスケープや先進事例を紹介しながら行う。</p>								
関連する科目	本授業の履修前には造園計画特論 I、本授業の履修と同時に造園計画特別演習、本授業の履修後に東洋庭園学特論 II、造園計画特論 II を受講することが望ましい。								
授業の進め方 と方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的にアクティブラーニング方式を取り入れて実施する（学術・知識のインプット）。 2. 授業前半は講義を行う（学術・知識のインプット）。 3. 授業後半はグループ学習、ディスカッションや課題発表（問題解決学習、プレゼンテーション）等を行う（学術・知識の醸成とアウトプット）。 4. 授業にはノートパソコンを持参して、ZOOMやSLACKを用いて、データや資料を共有しながら授業を行う。 								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1回目 序論：造園計画特論 II の概要説明と心得を行う。 2回目 Chapter-1 古代日本の庭園：古代国家の形成・発展と庭園文化（飛鳥時代の庭園文化（国家統一における庭園の役割）について学ぶ） 3回目 Chapter-1 古代日本の庭園：古代国家の形成・発展と庭園文化（奈良時代の庭園文化（国家の政における庭園利用）について学ぶ） 4回目 Chapter-1 古代日本の庭園：古代国家の形成・発展と庭園文化（平安時代前期の庭園文化（貴族政治とその文化における庭園の形成）について学ぶ） 5回目 Chapter-1 古代日本の庭園：古代国家の形成・発展と庭園文化（平安時代後期の庭園文化（貴族文化の繁栄と国風文化としての庭園）について学ぶ） 6回目 Chapter-2 中世日本の庭園：貴族・仏教・武家による庭園文化の多様化（鎌倉時代前期の庭園文化（貴族と武家社会による庭園）について学ぶ） 7回目 Chapter-2 中世日本の庭園：貴族・仏教・武家による庭園文化の多様化（鎌倉時代末期の庭園文化（貴族文化の再興と衰退、そして鎌倉仏教の影響）について学ぶ） 8回目 Chapter-2 中世日本の庭園：貴族・仏教・武家による庭園文化の多様化（室町時代前期の庭園文化（武家社会の台頭と禅宗文化と北山文化による影響）について学ぶ） 9回目 Chapter-2 中世日本の庭園：貴族・仏教・武家による庭園文化の多様化（室町時代後期の庭園文化（応仁の乱後の東山文化による影響）について学ぶ） 10回目 Chapter-2 中世日本の庭園：貴族・仏教・武家による庭園文化の多様化（安土桃山時代の庭園文化（佗び寂びと豪華絢爛な庭園文化との対比）について学ぶ） □ 11回目 Chapter-3 近世日本の庭園文化：総合化と深化する庭園文化の形成（江戸時代前期の庭園文化（幕藩体制下における大名庭園の発展）について学ぶ） □ 12回目 Chapter-3 近世日本の庭園文化：総合化と深化する庭園文化の形成（江戸時代後期の庭園文化（幕藩体制下における庭園文化の醸成）について学ぶ） 13回目 Chapter-4 近代日本の庭園文化：近代国家形成における新たな利用（明治・大正期の庭園文化（近代国家の形成下における庭園文化の革新）について学ぶ） 14回目 Chapter-4 近代日本の庭園文化：近代国家形成における新たな利用（昭和・平成・令和期の庭園文化（国際化する日本の庭園文化）について学ぶ） 15回目 総括：日本の庭園文化の総括と纏め（東アジア圏のなかでの日本の庭園文化の特徴と位置づけについて学ぶ） 								
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 東アジアの庭園の基本概念・歴史性について理解する【基礎的知識の習得】 2. 東アジアの庭園の自然感・空間性の要素について把握する【基礎的知識の習得】 3. 東アジアの庭園の植物・石・水・建築物などの要素の役割とデザイン手法を学ぶ【基礎的知識の習得】 4. 東アジアの庭園の役割・用途・作庭意図・文化的背景などの諸問題について考える【基礎的知識の習得】 5. 東アジアの庭園に関連する文献や研究成果に触れ、批評的思考力を身につける【自己管理能力・生涯学習力】 								
学位授与の方針 (DP)との関連	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・技能と教養-(1)食・緑の専門分野における高度な知識・技能/1. 知識・技能と教養-(2)未知問題解決のために知識・技能を創造的に活用できる。/2. 人間力・社会性・国際性-(1)豊かな個性を発揮して課題を発見し、探求することができる。/2. 人間力・社会性・国際性-(2)課題を広い視野で捉え、客観的に評価ができる。/2. 人間力・社会性・国際性-(3)主体性を持って多様な人々と協働し、課題解決ができる。/2. 人間力・社会性・国際性-(4)自分の文化や異なる文化を理解でき、文化を超えて交流できる。 								
授業時間外学習【予習】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業で配布する学術論文や資料等を授業前に精読すること。 2. 大学院の授業であるため、事前に参考となる研究資料を準備しておくこと。 3. 予習は1時間程度行うこと。 								
授業時間外学習【復習】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業後にさらに理解を深めるために学術論文や資料等を再度精読すること。 2. 復習は1時間程度行うこと。 								
課題に対する フィードバック	レポートは評価後、返却期間をもうけて返却ならびに解説をします。								
評価方法・基準	発表・研究した内容に関するレポート（100点）								
テキスト	テキストは使用しないが、その代わりに適宜プリント資料を配布する。								

<p>参考書</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『ランドスケープ研究』 日本造園学会 2. 『ランドスケープ研究作品集』 日本造園学会 3. 『ランドスケープデザイン』 マルモ出版 など
<p>備考</p>	<p>造園計画研究室（関西研）における研究領域の概要は以下の通りである。</p> <p>1) まずは、SDGs（持続可能な開発目標）を基本に、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりを進める「グリーンインフラ」の視点に立ち、地域活性化や持続可能な都市経営を考えたランドスケープについて研究している。例えば、地域の課題解決型をテーマに、実際にフィールドワークによって現状の課題について調査分析を実施し、地域の方との協働で考察を行い、新たな社会資本やその体制をランドスケープの社会実装を推進。</p> <p>2) また伝統的な日本庭園の研究を推進して、文化財庭園の修復や継承から持続可能な維持管理による文化財保護、その庭園の歴史的背景に関する史的研究などを行い、世界に発信する日本文化の深化を図っている。そして、その知識と専門技術を用いて、次世代型の日本庭園の構築を研究している。</p> <p>①近代ランドスケーププラン&デザインに関する実践研究とその活用（グリーンインフラ社会実装・造園計画） ②都市緑地環境の形成に関する調査研究とその活用（都市緑地形成・都市経営・まちづくり） ③日本庭園の成立背景に関する歴史原論研究とその活用（日本庭園史・庭園計画・歴史まちづくり）考察を行い、新たな社会資本やその体制をランドスケープの社会実装を推進。</p>